

“The Election, the media, and American Politics”

今回のパット&ライラ夫妻のスピーチは、
なんと、
政治向きの話、外国人との話題で政治に関わる事柄は、
どちらかと言うと避けられてきたかと思います。
とりわけ両国が微妙な関係にある時は、
互いに微妙な緊張関係に陥る懸念があるからです。
普段の会話に取り上げられる事は少なく、
馴染みのない言葉が飛び出て面食らってしまいました。



今回の米国大統領選挙において、人気投票では
クリントン女史が多く票を獲得していたのにも関わらず
大統領選に勝利したのはトランプ氏。 Why? というのが本日の話。

米国の大統領選挙をおさらいしておくのはアメリカをより深く理解できると思います。
話は、米国の建国時に遡ります。

アメリカ国民は広大な国土に散らばっていて、ラジオ・テレビ等もなく、識字率も低いという状況で、
大統領候補の政策や主張を知る即時性のある有効な手段はありませんでした。

このため、

州毎に地元や地域の信頼に値する名士や知識人を前もって複数の選挙人として指名し、
その指名された選挙人が大統領を選ぶという方法を採用しました。

その数は、上下両院の合計議席数と同じ、538名。

過半数の270以上を獲得すれば大統領に選ばれると言う事になります。

選挙人団による選挙は間接選挙であるため、

一般投票での得票率一位候補が当選できるとは限らないのです。

この仕組みは、合衆国憲法に規定されています。

この選挙人制度の下では、大統領候補は

- 小さな（人口の少ない）州でも
選挙運動を行う必要があり、
- 全米各地の有権者の関心事を知り、
それに対処する必要がある

クリントン候補は選挙終盤において、
各州を精力的に訪問することを怠り、
他方、

トランプ候補は最後まで全米各地を精力的に訪問し支持を訴えた。



加えて、情報の発信、利用に関し、
クリントン候補は読んで知る情報（新聞）を過信し（従来型の情報発信）
トランプ候補は見る、聞いて知る情報（分かり易い）を駆使して支持を集めたのです。
米国民は含蓄のある情報、従って、分かりにくい（新聞）よりも、
直接的で分かり易い情報（TV、ラジオ、SNS）を選んだのです。
まさに今日のメディアのあり様が結果を左右した事になります。
パット&ライラ夫妻はこの間の事情をデータを駆使して説明されました。

- 米国憲法に規定された選挙人制度と、
 - 今日のメディアを如何に活用するかが
- 大統領選挙の明暗を分けたと言えます。

スピーチの後、
パット&ライラ夫妻は<World's Smallest Political Quiz >を示され、
私達にトライするように促されました。
これまた、馴染みのないクイズでしたが、得た点数が個々人の立場を示すというものです。



トランプ大統領が実施する米国第一政策の行方や如何に。全世界の民が固唾を呑んで見ています。
願わくは、米国のみならず全世界の人々へも幸せがありますように。